

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	大平 英樹	所属	名古屋大学大学院環境学研究科 社会環境学専攻心理学講座
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 46 名（うち認定心理士 5 名） 非会員 39 名（うち認定心理士 0 名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p><b>【研究集会】</b></p> <p>目的：精神神経内分泌免疫学に関する最新の知見の共有、研究者間の交流を深めることで共同研究を行う機会を促進することを目的とする。また、若手研究者に積極的に研究発表の機会を与えることで若手研究者の育成に努める。</p> <p>成果：平成 24 年 6 月 30 日に第 16 回研究集会を新潟青陵大学にて、平成 25 年 3 月 2 日に滋賀大学にて第 17 回研究集会を開催した（別紙プログラム参照）。第 16 回研究集会では、3 題の研究発表に加え、日本感性工学会而立の会の方々をお招きし、また第 17 回研究集会では 3 題の研究発表とミニディスカッションが行われた。それぞれの研究集会では、精神神経内分泌免疫学における最新の知見についての情報交換はもちろんのこと、他領域の専門家も交え活発な議論が行われた。また、本研究領域における現状と問題点について議論することで今後の問題点が明確化された。</p> <p>将来計画：今後は、第 18 回研究集会を企画することで、さらなる情報、研究手法・技術の共有化、研究者間の連携を強めることを目指す。</p> <p><b>【日本心理学会第 76 回大会ワークショップ】</b></p> <p>目的：心理学領域における精神神経内分泌免疫学の普及と、基礎研究と応用研究の間の情報や技術の共有化を目的とした。</p> <p>成果：日本心理学会第 76 回大会において『睡眠への心理生物学的アプローチ』と題したワークショップを睡眠の基礎研究に関するワークショップと合同で開催した。睡眠の分野において生理学的なアプローチを用いた 3 人の若手・中堅研究者が話題を提供した。大平氏からは睡眠中のホルモン分泌動態についての研究を、そして小崎氏からは光環境がホルモン分泌に与える影響について報告した。さらに林氏は仮眠の効果に対する脳波的アプローチに関して話題を提供し、睡眠と心身の機能の関連について議論を深めた。</p> <p>将来計画：日本心理学会第 77 回大会にポジティブ感情・特性に関する生物心理学をテーマとしたシンポジウムを開催予定である。</p>		